

平成27年度 青少年問題を考える地域懇話会

当協会では市町村民会議の活動を支援するため、地域の青少年問題について、有識者と地域の活動指導者が意見交換等を行う「青少年問題を考える地域懇話会」を開催しています。27年度は八雲町、標津町の2箇所で、それぞれの青少年育成市町村民会議と共催して開催しました。

両会場では、青少年の健全育成のための課題や解決方策について、話題提供者（有識者）のお話をもとに、グループ討論や有識者による助言をうけ、活発で実りある懇話会が行われました。

【八雲町】テーマ「青少年の心を育てるために」

～学校・家庭・地域がどのように連携すればよいか～

- 日 時 平成27年10月15日（木）
- 場 所 八雲町公民館
- 共 催 八雲町青少年健全育成推進協議会
- 後 援 八雲町教育委員会
- 話題提供・助言者



「次代を担う青少年を育むために」

札幌国際大学スポーツ人間学部スポーツ学科 教授 佐久間 章 氏

- コーディネーター 渡島教育局教育支援課社会教育指導班 主査 吉田 昌幸 氏

●概要

話題提供では、鉄人28号的（操縦される）・鉄腕アトム的（自分で考える）人間の例をもとに、これからの時代は正解のない問題に対して、アトムのように自分で考え、主体性を持ち、仲間とともに答えを見いだす力やコミュニケーション能力が求められている。また、子どもたちを育てるために、大人が繋がり、価値観を共有し、多様な活動を提供することが大切というお話がありました。

意見交流では、参加者を5つのグループに分け、子どもから青年になる過程の中で、どのような力を身につけてほしいかについて交流し、各グループ毎の「身につけてほしい〇〇ヶ条」を発表しました。発表では、挨拶・礼儀・思いやり、規則正しく生活する、コミュニケーション能力、失敗しても何でも挑戦する、自分や相手の良いところを見つける、文化や伝統の尊重など、今の子どもたちに必要なことがたくさん出されました。

佐久間氏からは、「子どもの豊かな心を育てるためにどうするかに正解はない。だからこそ価値観を共有し、育てる方向を確認するために、こうした考えを交流する場が大切」「本当に来てほしい子どもが活動に参加しているのかどうか、どうすれば参加できるのかについても考える必要がある」という助言がありました。

参加された方のお話を聞き、八雲町の青少年育成活動への熱い思いが感じられました。

【標津町】テーマ「地域の子どもの育てるために」

～家庭と地域・学校をつなぐ具体的な方法をさぐる～

- 日 時 平成27年12月1日（火）
- 場 所 標津町生涯学習センター あすばる
- 共 催 健全な青少年を育てる標津町民の会
- 後 援 標津町教育委員会
- 話題提供・助言者



「地域の子どもの育てるために何が必要か」

北海道教育大学教育学部釧路校 教授 廣田 健 氏

- コーディネーター 根室教育局教育支援課社会教育指導班 主査 熱海 桂子 氏

●概要

話題提供では、地域の未来は子どもたちのあり方に関わってくる。そのためには、地域の青少年育成の問題や育てたい子どもの姿を共有し、家庭・地域・学校のつながりをつくること。青少年の成長に生かすためには、子ども自身が町づくりの主体となり、協働の担い手となり、将来のまちづくりの担い手となるよう子ども達を育てることが大切というお話がありました。

意見交流では、参加者がグループに分かれ、「どんな子どもに育てたいか（目指す姿）」、「目指す姿に近づくために、どのような取組が必要か」という二つのテーマをもとにグループ交流をしました。全体発表では、各グループによる発表があり、「ふるさと愛をもつ子ども—ふるさと納税、外からふるさとを支援する」、「モラル・忍耐のある子ども—家庭でのコミュニケーションや地域のかかわり（少年団等）」、「ハツラツ！・マナー・まちづくり・あったかい心・読書好きの子ども—家族・町内会等の原点にかえった活動が大切」、「自立する子ども—家族でやってみる」、「地元就職する子ども—企業・家族をつくる」、「実施・挨拶・元気のある子ども—本人が見本、まちの良さ発見」など、様々な目指す子ども像とその取組の方向が出されました。

廣田氏からは、「参加者の生き生きと交流する姿をみて、こういう方々がたくさんいるのが標津町だと実感した。話しやすい雰囲気の中で、子どもたちについて話し合うのは大事なので、今後ぜひ機会があれば続けてほしい」という助言がありました。